

2016年6月4日

【環境リサイクル肉牛協議会 第17回総会】議事録

特定非営利活動法人
環境リサイクル肉牛協議会

司会 花房俊一

出席者 参加者 16名 委任状 4名 合計 20名

会員数 29名で半数以上につき 成立の要件を満たす旨、報告あり

理事長挨拶 榛澤 保彦

17回総会・NPO法人8回 長く続いていると実感

試験場・研究者のご協力の元、皆さまのおかげである旨感謝。

議事録 岩崎 方保氏（マルハニチロ株）選出

議事録署名人 南端 昭氏（畜産試験場場長） 選出

議長選出 榛澤理事長 選出

1) 第1号議案 2015年度事業報告及び収支決算

- 2015年度 個人会員 16名（▲2名+1名）・13団体
- 総会理事会開催：2015年6月6日総会実施
- 役員改選 定款 理事6名につき1名欠員 青山氏選出
- 理事会：6月5日・8月12日・9月24日・1月29日 実施
- シンポジウム実行委員会の実施が報告された。
- 学術情報の収集と肉牛飼養技術研修会の実施報告がなされた。
- 肉牛飼養技術研修会の開催が報告された（6月6日・1月29日）
- 第12回資源循環型牛肉生産シンポジウムの開催が報告された。
（北海道肉牛研究会20周年との共催 11月6日～7日）
- 機関紙発行：ホームページ編集
- 月刊情報誌 e-びーふ NEWS 北の牧場から 毎月発刊報告された。
- 肥育モデル作成事業 アンガス飼料実態調査の実施が報告された。

【決算報告】

- 新生飼料の2015年度2回入金あったので、2016年度へ繰越
- 決算報告書が報告され承認されました。

【監査報告】内藤代表

- 適正かつ正確に処理されていることが監査人より報告されました。

質疑；

内藤氏より

◆アンガス飼養実態報告 7月21日実施報告がなされた。

◆役員任期について・・・年度末から2か月継承出来ないが、現役員が継続し対応する。会計は3月末⇒6月総会までに継承か。

→

- 北海道畜産草地学会では⇒4月から新役員を前回の総会で決定する方式。肉牛研究会も11月開催で翌年4月を決定。
- 会計が閉まらないと総会が開けない。会計内容は、北海道総合振興局に報告する義務がある。
- 会計事務所へ相談し、法律上、定款上問題無ければ今までのやり方を継続。問題あれば再度理事会で検討する。

2) 第2号議案 2016年度事業計画及び収支予算に関する件

1. 会員募集 目標会員数35名以上目指すことが報告されました。
2. 総会理事会の開催予定が報告されました。
3. 学術情報の収集と飼養技術研修会の開催予定が報告されました。
4. 第13回資源循環型肉牛生産シンポジウム2016企画が報告されました。(2016年11月11日)
5. 機関誌発行：ホームページ編集の予定が報告されました。畜産試験場 遠藤氏、酪農畜産協会よりも情報提供依頼。
6. e-びーふ認証活動の再検証
7. 肥育モデル作成事業・・・JRA補助予定もはずれる。補助金はない為、活動資金が検討課題として残る点が報告されました。
8. 2016年度予算が報告され承認されました。予算書については一部繰越金額修正の旨了承されました。

質疑；

瀬野氏より

- ◆ T P P 発行以降の畜種どうなるのか？黒毛和種の時代がまだ続くのかテーマ提案があり。
- ◆ 2016年11月10日地方特定品種の集まりが予定。詳細は未詳
6月9日担当者が帯広来て確認予定（口田先生より）

3) 第3号議案：協議会運営体制・・・今年度の引続き体制が確認されました。

事務局体制・NPO法人関連事務 竹川会計事務所を利用の旨報告されました。

肉牛事業について・・・経産牛の肥育事業は現在調査段階

- ◆ 短角頭数・・・道内頭数の推移は増えているという話は聞かない
北十勝上田さんの動向は？
アンガス減少・・・今後減少可能性 雄武町検討中（アグリファーム）

上川 阪本氏は廃業・芽室 岩間農場廃業との話。
黒毛高騰・交雑高騰の中で特定品種が苦戦状態
→北里も町内産では繁殖母牛確保が出来ていない状態。

自給飼料コスト 10 円/kg割 牧草

アンガス・短角が減少しているのは生産者が赤字だから？

国内生産者が選択する部分で現在 肉牛は黒毛・交雑へ～

◆榛澤会長 黒毛高く売れて喜ぶ生産者だが・・・

アンガス生産は厳しいが、飼料も食品残渣利用して生産手間。

面積・施設・機械が必要。設備投資・資金調達が難しい状況

時間の経過と共に黒毛以外の品種でも国内需要がしっかりとできれば良いが・・・

黒毛：国内需要が減少続いている。

黒毛肥育はガラパゴス化??

黒毛：使役牛からスタート：稲作経営から生まれた牛。

EUは多様性求める。米国は乳牛交雑化。

黒毛は遺伝子解析（単一品種）→世界的な動き コストは重要

穀物給餌率が高い日本の肉牛生産→コスト高が経営持続性弱い点

九州大学 強化哺乳（3 か月間）タンパク高いするとその後放牧すると太りやすい。配合飼料成分を仔牛へシフトしている動き。

米国：強化哺育の意味はあるのか不明。最終的差が無いのでは？

【議案承認】参加者全員一致で承認を得る。

写真 榛澤会長挨拶



肉牛飼養技術研修会（11:00～12:00）

北海道畜産試験場 遠藤哲代氏より発表

（1）放牧およびとうもろこしサイレージ給与による牛肉生産

道総研 畜産試験場 遠藤 哲代

出荷体型：2シーズン放牧 大型化

2015年宮北牧場 アンガスも大型化へ 種含め影響考察中

① 2シーズン放牧 アンガス肥育

② とうもろこしサイレージ雌肥育黒毛和種

① アンガス去勢2頭・雌1頭・黒毛1頭 計4頭

基本放牧・冬季舎飼（とうもろこしサイレージ給餌）

供試牛：

牛番号	性別	父	母の父	生年月日
215A	去勢	モーネンロング ディスタンス1639	シントクトント 203H	2013.9.12
216A	去勢	モックシュア シヨット	シントクプライム タイム201N	2013.11.30
308B	雌	コーネアリー インプリント8317	インデペンデンス	2014.2.3
406Z	去勢	勝早桜5	百合茂	2012.1.8

406Zは、黒毛和種で別の肥育試験中に貧血症のため除外された牛

飼養管理：放牧+とうもろこしサイレージ（仕上げ期）

測定項目：飼料摂取量、体重、超音波診断

飼養管理



- ・自然哺育
- ・乾草+育成配



- ・放牧草のみ

H26.5

H26.11

H27.5

H27.11

H28.11

舎飼①
(育成)

放牧①

舎飼②
(肥育)

放牧②

舎飼③
(仕上げ)

出荷



- ・ラップ乾草
- ・配合少々

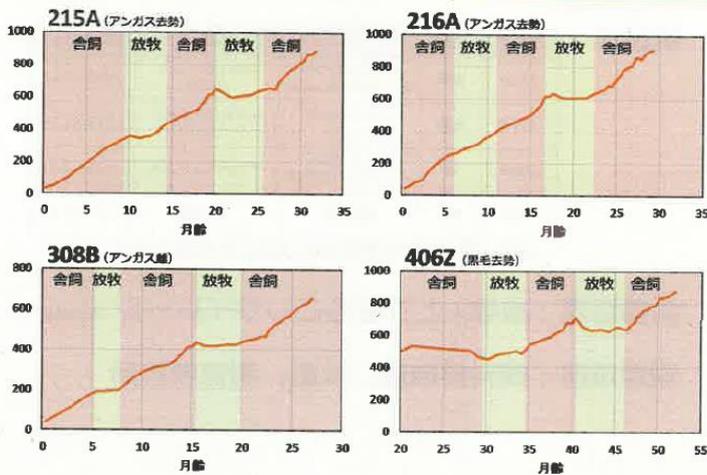


- ・CS
- ・大豆粕
- ・肥育配少々

仕上げ期の1頭当たり飼料摂取量 (kg原物)



体重 (kg)



日増体量 (kg)



	舎飼 (育成)	放牧	舎飼 (肥育)	放牧	舎飼 (仕上げ)
215A	1.10 0~8か月齢	0.60 9~14か月齢	1.26 15~20か月齢	0.22 21~26か月齢	1.50 27~32か月齢
216A	1.34 0~5か月齢	0.97 6~11か月齢	1.24 12~17か月齢	0.31 18~23か月齢	1.42 24~29か月齢
308B	1.02 0~4か月齢	0.62 5~8か月齢	0.90 9~16か月齢	0.23 17~22か月齢	1.22 23~28か月齢
406Z	0.02 0~28か月齢	0.14 29~34か月齢	1.04 35~40か月齢	-0.08 41~46か月齢	1.36 47~52か月齢

黒毛も放牧リハビリで回復。
アンガス生体牛 900 kg 超え
超音波結果・・・右手カブリ・ロース芯

皮下脂肪⇒800 kg以上アンガスは皮下脂肪 5cm 以前はあったが
今回の枝は皮下脂肪 2cm 程度 枝の形は黒毛より薄いも芯 50 以上ありそう
カミ脂・筋間脂肪は少ない見立て。歩留は良いとみられる

② とうもろこしサイレージで雌肥育（黒毛和種）

黒毛雌 4 頭：とうもろこしサイレージ飽食

肥育用配合飼料制限給餌

10 か月～28 か月と畜 1 頭 15～20 kg（とうもろこしサイレージ）

配合は 6 kg 制限で給餌。

体重変化 300 kg→右肩上がりの DG0.9 近い成績

生体 900 kg

格付結果 A5 2 頭・A4 2 頭成績 平均 539 kg

コース芯平均 73 バラ 9 cm 皮下脂肪 2.8 cm BMS 平均 8.5

平均単価@2,500 円 平均 145 万 BFS4 BCS4 色は平均的

十勝枝肉市場 3 頭上場。

1 頭当たり収益/98 万 飼料コスト比較

とうもろこしサイレージ 1 kg 6 円換算。哺育肥育経費 48 万コスト計算

育成～肥育期 配合 500 kg+乾草 500 kg

肥育期配合 6 kg 飼料コスト下がる成果。飼養方法としては期待できる

◆試食用牛

肥育期間 牧草サイレージ給餌+乾草

B5 33 か月齢 516 kg ユッケ試食

乾草戻さないとい前は BFS6 など出たが今回は BFS3



◆質問：放牧期間は飼料代金0での試算発表

◆質問：乳牛でも肉牛でもコスト計算が必要では？

乾物当たりのコスト 給与量・飼料の単価コストが出るのでは？

日本では肉牛生産。5月～11月放牧は・・・新得で5月不可では
180日間あるが現実的にはもっと短いのでは？

6月～10月が実際に放牧できる間 栄養的に増体しない。

◆デントコーン場内産 9月末 比較的早い時期収穫のデントコーン
霜が降りて倒れてしまう前に刈込。

- ◆アンガス・配合・大豆粕をやらない場合⇒どの程度落ちるものか？
- ◆放牧：地域・草性によるがどの程度の放牧地が必要となるのか？
改良された草地 1.5 頭～2 頭規模では？
- ◆配合飼料を給餌した意図は・・・他の給餌飼料の余り物を利用
⇒他の黒毛が食べ残した飼料を 6 kg 給餌。
- ◆アンガスはこれからと畜。11 月 11 日予定
- ◆放牧と放牧の期間は繁殖牛群と同じ飼料給餌。
基本パドックで繁殖のイメージ飼い方を実施。
- ◆黒毛 50 か月 シンポジウム試食予定（10 月屠畜）
⇒放牧リハビリ実施の有効性
症状：配合飼料を食べなくなり、発熱繰り返し貧血性含め調子悪かった牛
他の試験よりは少し放牧実施の黒毛（勝早系）消化器系こじれ配合ピーク期
肥育牛にある食いどまりの一緒と見ている。アシドーシスなど
- ◆放牧草地は種々の草草が生えている。更新きちんとしている状態では無く
雑草もある草地。
⇒草地評価は本来雑草まじりが良い。
栄養価は？2016 年度測定予定
芝・オーチャード・笹/林間放牧 4 町程度規模
- ◆コーンサイレージ 文献流通資料より仮設定 20 円/kg
軸もクラッシャーでつぶしている。（ホールクロップサイレージ）
2014 年・2015 年 9 月末収穫の飼料を使用。
- ◆2 シーズン放牧 前半育成⇒放牧ロス少なかったが
⇒2 年目はロス率が多い⇒判断は？代償性効果は？舎飼との組み合わせ
アンガス⇒平均 0.8～0.9DG 放牧実施でも問題無。
- ◆デントコーン 15 kg～20 kg 飼料給餌で A5 成績は凄い！
⇒現地実施試験 2 ボックで肥育センター・大樹生産者で同じ肥育実施
6 月 11 日新冠牧場 7 頭出品予定（牛が発育悪い状態とのこと）
6 月 11 日十勝枝肉セリ市場確認
BFS3 で収まっている点が凄い！
- ◆アングロ雌 去勢は大丈夫だったがメスは黄色かった。カロチン沈着能力
デントコーン 9 月中旬以降は急激にカロチン減少なので刈り取り時期が
影響するのでは？
- ◆内藤アンガス牧場 コントラ 2015 年より実施
BFS3～4 で収まっている状況。ある程度 応熟にかかると脂肪色可
十勝 9 月上旬収穫のデントコーンは肥育に使わない方が良い
- ◆デントコーンはタワー調整。頭数少ないのでタワーからドラム缶サイロへ
移動して給餌。（ラップの方が問題無し）
- ◆飼槽凍結は無い状態。ドラム管は前日少し暖かい所置いて取り出した。

解凍しても問題は無かった

◆コーンサイレージたんぱく値 乾物 8%程度
でんぷん 30 程度。

配合飼料タンパク 12%TDN72 を使用（6 kg 給餌）通常農家では肥育前期はもう少しタンパク高いものを給餌している。今回の試験では大豆粕給餌無。

3) 昼食(e-びーふ試食)・意見交換会（12:00~13:30）



道立家畜試験場 黒毛和牛 B5 等級 試験牛モモ使用 ユッケ



道立家畜試験場 モモ 黒毛 3 等級
その他 榛澤牧場 モモローストビーフ等試食
情報交換会実施 13:30 終了

2016 年 6 月 6 日

議事録署名人 道総研 畜産試験場